

解剖学各論 I

科目責任者 徳田 信子
学年・学期 2 学年・1 学期

I. 前 文

解剖実習に先行し、人体の構造と機能を学習します。発生学的な観点からも知識を深め、人体を総合的に理解できるようにしてください。ディプロマ・ポリシー「I. 医学知識 1) 人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。」の基礎を形成して頂きます。また、ディプロマ・ポリシー「V. リサーチ・マインド1) 最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。2) 自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。」を目指した講義も準備しています。

II. 担当教員

教 授	徳 田 信 子	解剖学 (マクロ)
准 教 授	上 田 祐 司	解剖学 (マクロ)
助 教	北 沢 祐 介	解剖学 (マクロ)
助 教	沢 登 祥 史	解剖学 (マクロ)
教 授	志 水 太 郎	総合診療医学
非常勤講師	河 本 宏	京都大学ウイルス再生医科学研究所・教授

III. 一般学習目標

人体の構造と機能の全体像をとらえ、各器官の肉眼的構造と機能を理解する。また、解剖学の臨床的な重要性を認識し、能動的学習の習慣を身につける。

IV. 学修の到達目標

- 1) 皮膚の構造と主な機能を説明できる。
- 2) 心・血管系の構造と主な機能を説明できる。
- 3) リンパ・免疫系の構造と主な機能を説明できる。
- 4) 肺・気道系の構造と主な機能を説明できる。
- 5) 消化管・肝胆膵の構造と主な機能を説明できる。
- 6) 腎・尿路系の構造と主な機能を説明できる。
- 7) 男性生殖器系の構造と主な機能を説明できる。
- 8) 女性生殖器系の構造と主な機能を説明できる。
- 9) 血液・造血器の構造と主な機能を説明できる
- 10) 頭頸部の構造を説明できる。
- 11) 感覚器の肉眼的構造を説明できる。
- 12) 上肢・下肢の構造を説明できる。
- 13) 胸部・腹部・骨盤の構造を説明できる。
- 14) 背面の構造を説明できる。
- 15) 人体の構造を発生学的に説明できる。
- 16) 解剖学用語（日本語・英語）を理解し説明することができる。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	4	8	水	1	浅層の構造1	徳田信子
2		8	水	2	浅層の構造2	徳田信子
3		8	水	3	背面の構造	徳田信子
4		15	水	4	上肢と下肢	徳田信子
5		15	水	5	顔面と頸部	徳田信子
6		15	水	6	頸部と腋窩	徳田信子
7		20	月	1	胸部1	徳田信子
8		20	月	2	胸部2	徳田信子
9		20	月	3	胸部と腹部1	徳田信子
10		21	火	3	胸部と腹部2	徳田信子
11		27	月	1	胸部と腹部3	徳田信子
12		27	月	2	特別講義：総合診療からの胸腹部解剖-1	志水太郎
13		27	月	3	特別講義：総合診療からの胸腹部解剖-2	志水太郎
14		28	火	1	胸部と腹部4	徳田信子
15		28	火	2	腹部と骨盤1	徳田信子
16		28	火	3	腹部と骨盤2	徳田信子
17		30	木	1-3	中間試験	全 員
18	5	13	水	3	腹部と骨盤3	徳田信子
19		22	金	1	腹部と骨盤4	徳田信子
20		22	金	2	頭頸部1	徳田信子
21	6	12	金	1	頭頸部2	徳田信子
22		12	金	2	頭頸部3	徳田信子
23		16	火	1	頭頸部4	徳田信子
24		16	火	2	頭頸部5	徳田信子
25		22	月	1	特別講義：再生医療とがん免疫療法の現状と課題-1	河本 宏
26		22	月	2	特別講義：再生医療とがん免疫療法の現状と課題-2	河本 宏

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

試験やレポートによって総合的に評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

様々な書籍が出版されています。

書店などで実際に手に取り、ご自分に合ったものを選択してください。

下記に例示します。

- 1) 教科書：グレイ解剖学，エルゼビア
- 2) 教科書：プロメテウス解剖学 解剖学総論／運動器系，医学書院
- 3) 図譜：プロメテウス解剖学コアアトラス，医学書院
- 4) 図譜：ネッター解剖学アトラス，南江堂

VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：解剖学マクロ講座図書集会室（133室）

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・中間試験の結果を講評します。

XI. 求められる事前学習、事後学習

シラバス別冊に記載済み。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載済み。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）